

大波羅遺跡 3 次

2004年

日田市教育委員会

序 文

大波羅遺跡 3次調査地区は市役所のすぐ東に位置する遺跡で、過去の調査では古代の墨書き土器が発見されるなど日田市の歴史を考える上で重要な遺跡です。

今回の発掘調査は狭い調査範囲ではありましたが、古代から中世期の掘立柱建物跡や土坑、溝跡などが発掘され、貴重な成果を収めることができました。

こうした調査の記録をまとめた本報告書が、これから文化財保護や地域の歴史の解明、さらには学術研究や学校現場での教育資料などにご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査への多大なるご協力をいたしました日高淳一氏と作業員の皆様方に対して、心から厚くお礼を申し上げます。

平成16年7月

日田市教育委員会

教育長 講 山 康 雄

例　　言

1. 本書は、日田市教育委員会が平成16年度に実施した大波羅遺跡の3次調査発掘調査報告書である。
2. 調査はマンション建設に伴い日高淳一氏の委託業務として日田市が受託し、日田市教育委員会が調査主体となり実施した。
3. 調査にあたっては日高淳一氏、(有)日田都市開発測量、(有)ツカサのご協力を得た。
4. 調査現場での実測・写真撮影、掲載遺物実測は土居が行ない、製図は藤野が行なった。
5. 遺物の写真撮影は、長谷川正美氏（雅企画有限会社）の撮影による。
6. 出土遺物および図面、写真類は、日田市埋蔵文化財センターにて保管している。
7. 本書の執筆・編集は土居が担当した。

本 文 目 次

I. 調査に至る経過と組織	1
II. 遺跡の立地と環境	2
III. 調査の記録	3
IV. まとめ	6

挿 図 目 次

第1図 遺跡の位置図 (1/5,000)	1
第2図 周辺の遺跡分布図 (1/25,000)	2
第3図 基本土層図 (1/20)	3
第4図 調査区位置図 (1/500)	3
第5図 遺構配置図 (1/200)	4
第6図 1号掘立柱建物実測図 (1/80)	5
第7図 1号土坑実測図 (1/40)	5
第8図 1号溝実測図 (1/80)	5
第9図 出土遺物実測図 (1/3)	5

表 目 次

第1表 出土土器観察表	7
-------------------	---

挿入写真目次

写真1 基本土層写真	
写真2 作業風景	
写真3 調査に参加いただいた作業員の皆さん	

写真図版目次

写真図版1 調査区空撮、調査区遠景	
写真図版2 調査区近景、検出遺構、出土遺物	



日田市の位置

I 調査に至る経過と組織

平成15年12月24日付けで日高淳一氏より、日田市大字田島108番地でマンション建設に先立つ埋蔵文化財の有無に関する照会文書が市教委に提出された。これを受け、市教委では開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である日田条里に該当し、すでに予定地の東側では大波羅遺跡（1・2次）、南側には日田条里飛矢地区などの発掘調査が実施されており、遺跡の存在する可能性が高いことからその取扱いについては協議をいただく旨の文書回答を行った。

その後の平成16年1月13日には日高氏から埋蔵文化財予備調査の実施依頼書が提出され、これを受けて市教委では1月27日に試掘調査を行うこととした。その結果、溝や柱穴といった遺構が検出されたことによって遺跡の存在が明らかとなった。

こうした結果をもとに日高氏と遺跡の取扱いについての協議を重ね、最終的には発掘調査への協力の同意を得て、農地の一時使用が認められた後から発掘調査を実施するにいたった。

発掘調査は対象地の大半が盛土となるためマンションが建設される範囲を対象に、5月20日には委託契約を交わし、5月25日から調査を開始し、5月27日には全ての作業を完了した。調査に関する日誌は下記のとおりである。

- 6月25日（火） 機械を使って表土剥ぎ、作業員による遺構検出と1号溝の掘下げを行う。
26日（水） 1号溝、1号土坑、柱穴の掘下げ、平面図の実測作業を行う
27日（木） 柱穴の掘下げ、平面図の実測・レベリング、写真撮影を行い、器材をかたづけて撤去する。

なお、調査組織は、次のとおり。

調査主体 日田市教育委員会

調査責任者 謹山 康雄（日田市教育委員会教育長）

調査統括 後藤 清（同文化課長）

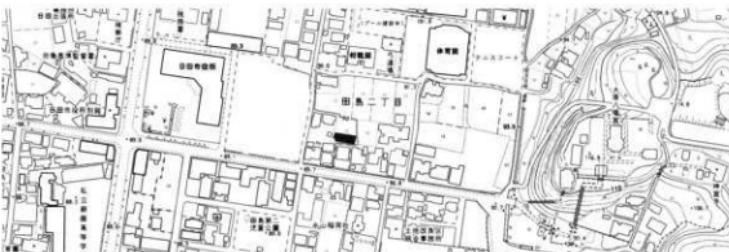
調査事務 高倉 隆人（同文化課課長補佐兼埋蔵文化財係長）伊藤 京子（同副主幹）

調査担当 土居 和幸（同主査）

調査員 行時 桂子（同主任）若杉 竜太（同主任）、渡邊 隆行（同主事）

調査作業員 穴井 昌生、五反田静子、後藤 孝市、財津 利枝、高倉富美子、筒井 英治、
原口 勝利、松岡 初次

整理作業員 川原 君子、聖川暢子



第1図 遺跡の位置図（1/5,000）

II 遺跡の立地と環境

遺跡は盆地東部の標高89mの沖積地に位置し、北に花月川、南に筑後川がそれぞれ西流しており、東には慈眼山・大波羅・会所宮といった丘陵が連なる。市役所や法務局、高校などの公共施設や住宅などが建ち並ぶ遺跡周辺の田島の地名は、『豊西記』によれば早くから水田が開かれたことから“田始播”と呼ばれるようになったと記す。この地域は古代律令期には『豊後風土記』にみえる日田郡5郷のうち日田を支配した日下部氏の中心地として知られている鞍編郷に属し、11世紀に日下部為行が26町にもおよぶ桑畠の開墾を行った田嶋別符も含まれる。その後中世期には約250年にもわたって日田の地を支配した大蔵氏が慈眼山丘陵地周辺を本拠地とし、寛永元年（1624年）には大波羅丘陵に9世紀に祭られたと伝えられる元大原社より変宮された大波羅八幡宮が鎮座される。

周辺遺跡を概観すると、まず中世大蔵氏の居城や居館と推定されている大蔵古城跡（3）や慈眼山瀬戸口遺跡（4）があり、前者は試掘調査や広範囲に残る関連字名、現存する堀などの遺構から大規模な山城であったことが推察される。後者では中世期の居館の一部と考えられる幅、深さとも約2m規模を有す大溝が発掘されているほか、古代の井戸跡や「門」・「林」などの墨書き土器が発見されている。この遺跡の南には上ノ馬場遺跡（6）や「田」・「山」などの墨書き土器や瓦が発見された大波羅遺跡（11・12）、会所宮遺跡（17）などが丘陵下の沖積地に分布する。また丘陵上には竪穴式石室を主体部とする丸山古墳（5）、円筒埴輪が出土した菜師堂山古墳（14）、装飾古墳である法恩寺山古墳群（20）のほか鳥羽塚古墳（16）、後山古墳（18）、会所宮古墳（19）などが点在している。さらに西側には残丘の崖面に展開する月限横穴墓群（1）、江戸時代に代官・郡代が置かれた永山布政所跡（2）、廣瀬淡窓が開塾した私塾咸宜園跡（7）などが周知され、最近では日田条里四反烟地区（8）、日田条里飛矢地区（9）、日田条里大原地区（15）といった遺跡が新たに確認され発掘調査されている。

- 注
- 坂本 嘉弘『慈眼山瀬戸口遺跡』大分県教育委員会 1992
土居和幸他編『第4・11年度年報』日田市教育委員会 1994・2001
 - 行時 志郎編『上ノ馬場遺跡』日田市教育委員会 2000
 - 渡道隆也編『大波羅遺跡』日田市教育委員会 2001
村上久和他編『大波羅遺跡』大分県教育委員会 2001
 - 土居和幸他編『会所宮遺跡』日田市教育委員会 1996
 - 賀川 光夫編『法恩寺山古墳』日田市教育委員会 1956
 - 行時 桂子編『平成14年度埋蔵文化財年報』日田市教育委員会 2003
 - 土居 和幸編『日田条里四反烟地区』日田市教育委員会 2003
 - 若杉 竜太郎編『日田条里飛矢地区』日田市教育委員会 2003
 - 若杉 竜太郎編『日田条里大原地区』日田市教育委員会 2004



第2図 周辺の遺跡分布図（1/25,000）

III 調査の記録

(1) 調査の概要 (第4図、図版1)

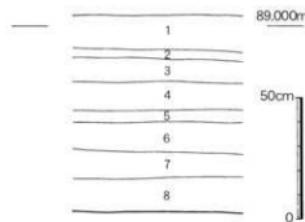
今回の調査は試掘調査の結果を踏まえて遺構検出面まで機械で掘り下げを行い遺構の記録を行ったが、水田層については土層観察による記録にとどめた。

調査において検出した遺構は掘立柱建物1棟、土坑1基、溝1条、ピットである。これらの遺構検出面は調査区西端に設定し確認した基本土層中の7層(黄灰色砂層)上面にあたる。しかしながら調査区の東側では遺構が2層直下で検出されるなど、場所によって土層の堆積状況が大きく異なっていた。このため、遺構検出レベルは東側が高く、西側に向かって低くなっている。

また、検出した遺構の分布は第4図にみるように調査区東側から中央にかけて集中して



基本土層写真



第3図 基本土層図 (1/20)



第4図 調査区位置図 (1/500)

おり、西側は溝のほかにはピットがまばらにみられるのみであった。

なお、今回の発掘調査面積は199m²である。

(3) 基本土層（第3図）

調査区西側にサブトレンチを設定して土層の確認を行ったところ、次のような堆積を基本としていた。1層は現在の水田層の表土である。2層は1層の盤土である。3層は黄褐色砂層で10cm程度の水平な堆積をなす。4層は黒灰色砂層で、10cm程度の堆積をなす。5層は黄灰褐色砂層で、5cm程度の堆積をなす。4層は他の層とは異なり粘性を帯びており、5層中には鉄分が多くみられることから、肉眼観察ではこの両層は旧水田層の表土と盤土にあたるものと判断しえる。6層は明灰色砂層で、10cm程度の堆積をなす。7層は黄灰色砂層で、10cm程度の堆積をなす。遺構検出面にあたる。8層は明灰色砂層である。

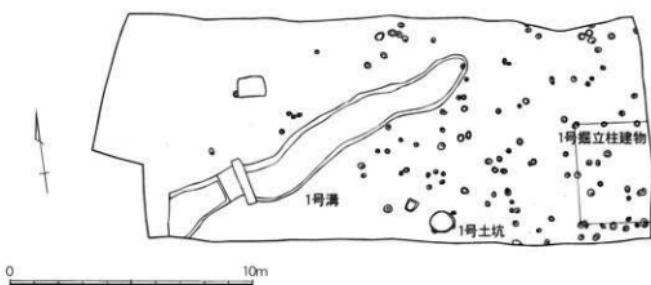
(3) 遺構と遺物（第5～9図、図版2）

1号掘立柱建物（第6図、図版2）

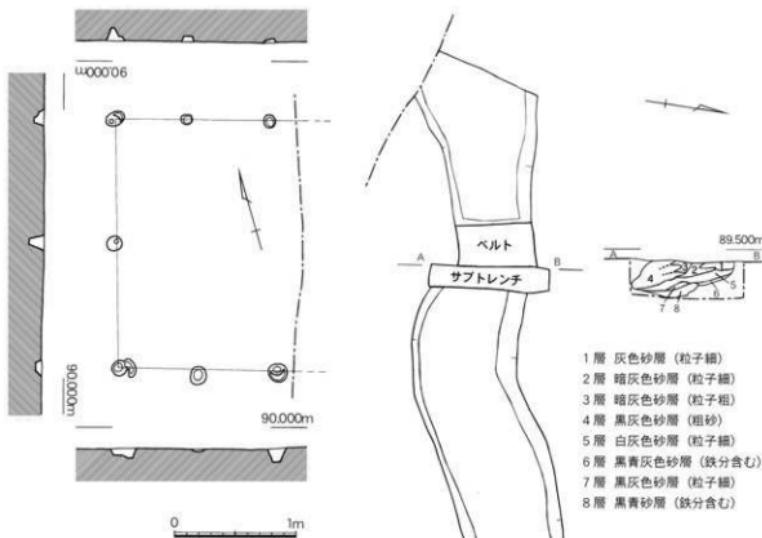
この掘立柱建物は調査区の東側で検出したが、さらに調査区の東へと伸びている。規模は2間×2間+ α で、柱間寸法は心心距離で南北方向が405cm、東西方向が260cm+ α を測る。この建物の柱穴の埋土は黒色土である。柱穴からの遺物の出土はない。

1号土坑（第7・9図、図版2）

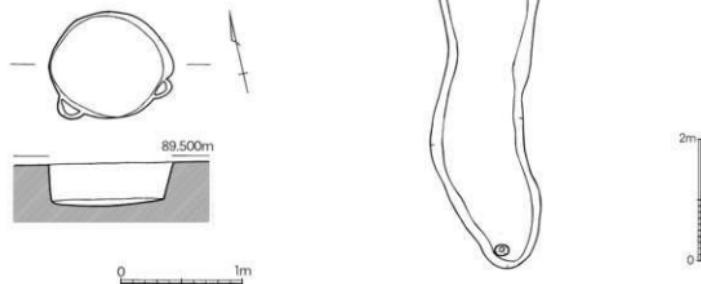
調査区の南側中央で確認した。土坑の規模は長軸103cm、短軸88cm、深さ36cmを測る。平面形は円形に近い梢円形を呈しており、断面の形は箱掘りをなす。埋土は白灰色砂層の一層で、下部には径5～10cm程度の黒褐色土がブロック状に堆積していた。この埋土中からは土師器などの遺物が出土している。第9図1～4は土師器の皿もしくは壺の口縁部と底部である。いずれも復元できる大きさではなく、ローリングが著しく調整は不明である。5は瓦質土器の捕鉢底部であろう。ローリングが著しい。



第5図 遺構配置図 (1/200)

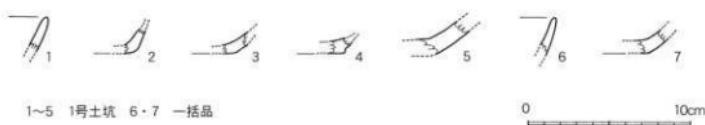


第6図 1号掘建柱建物実測図 (1/80)



第7図 1号土坑実測図 (1/40)

第8図 1号溝実測図 (1/80)



第9図 出土遺物実測図 (1/3)

1号溝（第8図、図版2）

この溝は調査区北側中央から南西隅へと調査区を斜めに横切る。溝の規模は検出した長さが14m35cm、幅125～191cm、深さ19～39cmを測る。全体的に蛇行しながら走っており、さらに西・東側ともに調査区外へと伸びるものと考えられる。埋土は全て砂層で、その埋没状況は全体的に北から南へと堆積しており、5層下部には1cm程度の白色粘土層が、6・8層下部には鉄分層がそれぞれ認められた。埋土中からは遺物は出土していない。

ピット（第5図）

1号掘立柱建物以外のピットでは、調査区が狭いということもあって明らかに建物の柱穴と考えられるものは認められなかった。埋土は黒色のものと灰褐色のものがある。ピットからの遺物の出土は全体的に少ない。

(4) その他の遺物（第9図、図版2）

一括の遺物には図示したもの以外に、小国産黒曜石の原石や須恵器片などもある。第9図の6は染付の碗であろう。7は青磁碗の底部である。

IV まとめ

今回の調査では掘立柱建物1棟、土坑1基、溝1条、ピットを確認した。

まず、それぞれの遺構の時期であるが、遺構からの遺物量は少なく、また年代を特定できる資料に乏しいなかで重複関係にある遺構の存在から少なくとも1号溝が古く、1号掘立柱建物やピット、1号土坑という時間的な流れをつかむことができる。このなかで遺物が出土している1号土坑は土師器を主体とし、染付などの近世以降の遺物や須恵器などの古い時期の遺物を含まないことを考慮すると、中世期の所産と考えられそうである。次に1号掘立柱建物や1号溝であるが、遺物が出土していないためはっきりとはしない。ただし1号溝についてはさらに東へと延びており、そのまま延長すれば大波羅遺跡1次調査区へと続くものと予想される。⁽¹⁾ 1次調査区では弥生時代から古代の流路や溝跡が何条も確認されており、その状況が今回の1号溝と類似している点からすれば、1号溝は1次調査区で確認されている溝と同様と考えられる。従って、ここでは1号溝の時期を弥生時代から古代までの時期幅のなかで捉えておきたい。こうしたことから、1号掘立柱建物については弥生時代から中世という大きな時間幅のなかでおさえられるが、建物の柱穴埋土が年代の新しそうな黒味を帯びていることから、古代～中世頃の所産と考えられそうである。

さて、本調査区東側の1次調査区では弥生時代から古代の集落跡が発掘されており、なかでも古代のB区4号溝からは「山」、D区包含層からは「田」の銘が入った墨書き土器や瓦が発見され、階級層や官衙、寺院といった関連施設の存在が想定されている。この1次調査区では中世の遺構は検出されていないものの、この調査区に接する3次調査区での遺構密度の希薄さや西側に向かって遺構が存在しなくなる状況は、今回の遺構がこうした1次調査区での集落範囲に含まれ、集落の西限を示しているものと推定される。大波羅遺跡の全体像をつかむことは、古代日田の社会像を考え

る上で重要なだけに今回の調査は貴重な資料となりえる。しかも今回の調査を含め、ここ数年間に3次調査区周辺では日田条里飛矢地区^(注3)、日田条里大原地区^(注4)、日田条里四反畑地区^(注5)と発掘調査が相次ぎ、弥生時代から古代・中世にかけての集落跡が発見されるなど盆地内における沖積地での遺跡のあり方やその内容が次第に判明しつつあると同時に、古代日田の中心的ともいえる轄編郷における集落様相の解明への手がかりとなる資料が蓄積されてきている。こうした意味でも、今回の調査資料は今後の日田市の歴史を考える上でも大きな成果といえよう。

注

- 1) 渡邊隆行他編『大波羅遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第29集 日田市教育委員会 2001
- 2) このことは、周辺の試掘調査でも同様な状況がみられる。
- 3) 若杉竜太他編『日田条里飛矢地区』日田市埋蔵文化財調査報告書第40集 日田市教育委員会 2003
- 4) 若杉 竜太編『日田条里大原地区』日田市埋蔵文化財調査報告書第47集 日田市教育委員会 2004
- 5) 土居 和幸編『日田条里四反畑地区』日田市埋蔵文化財調査報告書第46集 日田市教育委員会 2003

第1表 出出土器観察表

挿図番号	遺構名	種別	器種	法量		調整		胎土	焼成	色調		備考	
				口径	胴部径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
第9図-1	1号土坑	土師	皿か壺	-	-	-	(2.2)	不明	不明	ABC H	良	黄褐色	黄褐色
第9図-2	1号土坑	土師	皿か壺	-	-	-	(1.5)	不明	不明	B C D H	良	黄褐色	黄褐色
第9図-3	1号土坑	土師	皿か壺	-	-	-	(1.3)	不明	不明	A B C D H	良	黄褐色	黄褐色
第9図-4	1号土坑	土師	皿か壺	-	-	-	(0.9)	不明	不明	A B C D H	良	橙褐色	明橙褐色
第9図-5	1号土坑	瓦質	鉢鉢	-	-	-	(2.0)	不明	不明	A B E H	良	暗灰褐色	明灰色
第9図-6	一括	染付	碗	-	-	-	(2.4)	-	-	-	良	白色	白色
第9図-7	一括	青磁	碗	-	-	-	(1.4)	-	-	-	良	淡緑色	淡緑色

※単位はcm。()は現存長

胎土：A:角閃石 B:石英 C:長石 D:赤色粒子 E:白色粒子 F:黒色粒子 G:雲母 H:砂粒



作業風景



調査に参加いただいた作業員の皆さん

写真図版 1



調査区空撮（南西から）



調査区遠景（西から）

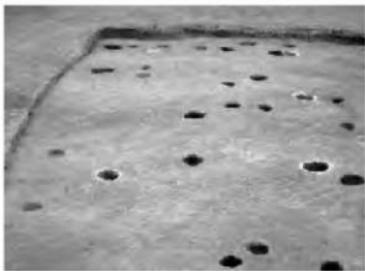
写真図版 2



調査区近景（東から）



調査区近景（西から）



1号掘建柱建物（北から）



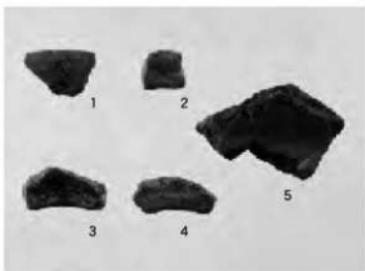
1号土坑（東から）



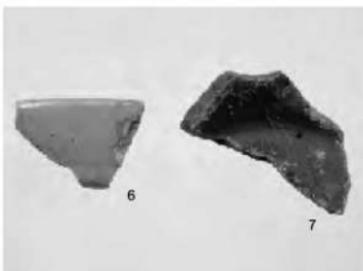
1号溝（北東から）



1号溝土層断面（東から）



1号土坑出土遺物



一括遺物

報告書抄録

ふりがな	おおはらいせき
書名	大波羅遺跡3次
副書名	
巻次	
シリーズ名	日田市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	54
編著者名	土居和幸
編集機関	日田市教育委員会文化課
所在地	〒877-0077 日田市南友田町516-1
発行機関	日田市教育委員会
所在地	〒877-8601 日田市田島2-6-1
発行年月日	2004年7月30日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大波羅遺跡3次	大分県日田市 大字田島108番地	44204-6	651149	33°19'15"	130°56'34"	20040525 ～20040527	199m ²	マンション建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大波羅遺跡3次	集落跡	古代～中世	掘建柱建物1棟、土坑1基、溝 1条、ビット	土師器、青磁、染付	

大波羅遺跡3次

日田市埋蔵文化財調査報告書第54集

2004年7月30日

編集　日田市教育委員会 文化課
 〒877-0077 大分県日田市南友田町516-1
 発行　日田市教育委員会
 〒877-8601 大分県日田市田島2-6-1
 印刷　尾花印刷有限会社
 〒877-0026 大分県日田市田島本町8-8